

へらエサ POWER BOOK 2006



02

アウトライン
9～10月のへら鮎釣り

03

両ダンゴの浅ダナ釣り

06

両ダンゴのチョーチン釣り

09

両ダンゴの底釣り

12

ヒゲトロのセット釣り

14

一発の段差釣り

9～10月のへら鮎釣り

アウトライン

秋口といわれる10月までの釣りは、大きくふたつに分けられる。ひとつは夏の釣りが延長する9月いっぱいまでと、もうひとつは、気温が少しずつ低下する秋本番の10月の釣りだ。

夏の水温が高い時期を過ぎて、気温とともに低下する秋は、へら鮎は春のように簡単にエサには飛びつかなくなる。これが秋の釣りが難しいといわれるゆえんだ。9月いっぱい管理釣り場ならば、浅ダナ釣り、チョーチン釣りとも両ダンゴを本線に、食い渋ったら「ヒゲトロ」のセット釣りが有効だ。この釣りは、12cmと17cmといった短バリスを使うのが特色で、バラケはダンゴエサをそのまま転用でき、「ヒゲトロ」さえ持っていれば、

いつでも釣り方をチェンジでき、手軽さがウケている。

さらに、10月に入ると朝夕の気温が低くなるため、ウドンの浅ダナセット釣りへと釣り方が変わるのが例年のパターン。バラケの持たせ方、抜き方がカギとなるが、この時期では、まだへら鮎の動きがいいので、トップをしつかりなじませて力強いアタリを狙いたい。

野釣りでは、気温の変動がへら鮎の泳層に影響を与える。水温が高ければ、釣り方を決めてそのタナに集魚できても、秋本番ともなると日によってタナがめまぐるしく変化する。「秋はタナを釣れ」といわれるように、泳層をいち早くキャッチすることが急所。

秋の両ダンゴは夏に決まっ



たエサより、ややボソツ気のあるものを追う傾向にある。ハリスをマメに交換して釣況にマッチすると良型が揃うのが特徴。

その一方で、渋ったら「一発」の段差釣りやグルテンだけでなく、最近では「ヒゲトロ」も実績を挙げている。多彩な食いを注意すれば、思わぬ食い渋りにとまどうことなく秋の釣りを満喫できるはずだ。